

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2062号 2011年04月11日(月)

《 big blow to Kan administration 》

東日本大震災から一ヶ月という時間がたった日曜日の10日に投開票された日本の統一地方選挙。その結果は、

1. 菅民主党の明確な敗北によって、一時盛んに言われて選挙直前も「もしかしたらあるかもしれない」と思われていた震災対応の大連立の可能性は非常に低くなり、菅政権が再び党外、党内から退陣圧力を受ける展開となる
2. その結果、いったんは収まったように見える日本の政権と政治の先行きに対する懸念が増大して、それがマーケットに影響する可能性が出てきた
3. 菅政権の行き詰まりは明確だが、後を受ける民主党の人材も枯渇気味であり、そうした中で望ましいことではないが「ポスト菅」の図式も見えず、「総選挙」の可能性も残る

ということでしょう。

民主党は衆議院では依然として圧倒的な議席数を誇るが、全体的に見て政権基盤は極めて弱いと言える。今回の地方選挙で示された低迷する人気、各方面からの菅首相への厳しい批判、地方議会での議席減に示された政党としての基盤の弱さ、参議院での過半数割れ、など。「砂上楼阁」の様相を強めている。

震災・原発事故対応を巡っても、菅政権に対する国民の評価は世論調査で見ると限り非常に低い。これは、財政問題と合わせてマーケットが日本の先行きに対する悲観論を強める要因となる可能性があり、株安、円安のファクターとなる。「(日本の) 政治には最初から期待していない」にしても、今回の地方選挙後の日本の政局は、「脆弱化する菅政権とどう向き合うか」の難しい選択を各党に問いかけていると言える。

今回の統一地方選挙後の日本の政治構造を見ると、面白いねじれサンドイッチ構造になっていることが分かる。県議選などの結果を見ると、「無所属」もかなりいるが「政党所属」が圧倒的に多い。「自」とか「民」など政党を意味する表示がかなりある。「無」よりも多い。しかし県知事や市長など地方自治体のトップは圧倒的に「無所属」が多い。「共」を除けば、ほぼすべての候補者が「無」である。つまり無所属。しかし国政を見ると、政党中心の選挙制度（比例代表、小選挙区など）もあって、依然として政党中心の政治となっている。

なぜ地方自治体のトップに「無所属」が多いのか。自民、民主の両党がそれなりの人材を立てられずに「相乗り」になるケースが多いのと、市政や県政のトップになると、「所属」を前面に出さない方が仕事はやりやすいのでしょうか。しかしこれは明らかに、日本における政党政治の行き詰まりの一つの象徴だろう。テレビなどは、これといった対立軸がないなかで、「民主」と「自民」の対立構造が残っているところを特に取り上げている。しかし実態を見ると候補者の肩書きは「無所属」同士。地方自治のトップについて言うと、「無所属」ということでなければ、時流に乗っていないような雰囲気さえある。

しかしそのサンドイッチの下部構造を見ると、県議選レベルの議席数では圧倒的に自民党有利。対して、国会の議席数を見る限り国政は圧倒的に民主党有利。ということは、サンドイッチの左の(下)のパンには「自民党」と書いてあって、右の(上)のパンには民主党と書いていることになる。これは食べづらい。そして、“無所属”が支配する地方自治体の中には、大阪の維新の会や名古屋の減税日本など、上下(左右)のパンとは違う動きも見える。これはなかなか味が複雑だ。しかも、今回の地方選挙を見る限り、「大阪維新の会」には勢いがあり、対して「減税日本」には勢いがないように見える。

つまり、日本の政治はいろいろな面で衆参だけでなく、あちこちで「捻れ」が生じていることになる。この捻れが今回のような「日本は一つのチーム」というようなキャッチフレーズがあるなかでも生じているので、相当長く続くのでしょう。

《 more lower yen ? 》

それにしても、「争点」のない選挙でした。どの候補者の話を聞いても「安全・安心」「震災対策」「防災都市」などで、「これじゃ政策では比較できない」という印象がした。名古屋や大阪のように争点を持つ地域政党の台頭はありましたが、一気に細川ブームの時のような広がりはない。一つ明らかなのは、「民主党は大敗」ということでしょう。NHKが盛んに「対立構造」と言っている三都県では、民主党推薦が全敗。県議選レベルでも、民主党の議席の数は、「中央で政権を取っている政党の数字か」と思う程低い。目標を大きく下回った。

民主党は県議選などのレベルでは議席は最初から少ないんですが、本当は政権を取っている間に議席を増やさねばならない。それもならなかった。菅政権の不人気、それに政権を取ってからの政策の人気のなさが背景でしょう。「大阪維新の会」の伸びは注目されるが、国政には全く議席を持たない政党。まだ大阪限定の政治家で、国政に出て大きな勢力を占めるといのはなかなか難しい。時代と要請の変化が激しい時代には、「国政の変化を縛っている仕組み」は当面続きそうで、日本の政治の混迷は続きそう。

今週の市場の注目点は、日本と他の国々の間で金利差の拡大が進むとの観測から急速に進んだ円安が、先週一巡感を示す中で、市場が再び円安の方向に動くのか、それとも調整期に入るのかでしょう。月曜日の朝の市場を見る限り気迷っている印象がするが、筆者は調整した後再び円安の可能性を試すのではないかという見方だ。

今週の主な予定は以下の通り。

4月11日（月）	2月機械受注 日銀支店長会議 インド2月鉱工業生産
4月12日（火）	米2月貿易収支 韓国中銀金融通貨政策委員会
4月13日（水）	3月国内企業物価指数 米3月小売売上高 米2月企業在庫 米ベージュブック
4月14日（木）	3月首都圏マンション販売 米3月生産者物価 G20財務相・中央銀行総裁会議（WT） 休場／インド
4月15日（金）	2月鉱工業生産（改定値）・設備稼働率 米4月ミシガン大学消費者信頼感指数 米3月消費者物価指数 米3月鉱工業生産・設備稼働率 ポルトガル長期国債償還 中国1-3月GDP 中国3月生産者物価 鉱工業生産 消費者物価 小売売上高 固定資産投資
4月16日（土）	IMF・世銀総会（ワシントン）

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。今朝はついマスターズ・ゴルフに目が行きました。日本の選手では、アマチュアの松山英樹選手の活躍が特筆されるでしょう。後半スコアを落としたものの、18番でバーディを取って-1で終わった。ベストアマ。アマチュアなのに、ミケルソンと同スコアですからね。素晴らしい。優勝セレモニーでの松山は緊張しているようですが、誇らしげでした。私たち日本人にとっても。前日松山選手にスコアで負けていた石川遼君は、日中イーグルなどもあり、スコアを伸ばして-3。ただし上がり2ホールがバーディで、ナイスなフィニッシュでした。

それにしても、一時トップを走っていたマッケロイ選手の大崩れなど、今年のマスターズ

も見所が沢山あった。優勝は南アフリカのシュワーツェル。-14。上がりが4連続バーデー。2位タイにはオーストラリアの選手二人が入り、タイガーウッズは一時いいところまでいったが、結局-10。15番で短いイーグルパットを外したのが痛かった。まあ、結構復調はしてきている。

それにしても「桜の季節」ですね。都内はどこを走っても桜が満開。しかも今年は「桜の季節」としては暖かい気候が続く東京。土日は両方とも桜に恵まれました。土曜日はゴルフ場で、日曜日は皇居周りで。しかし、日曜日の皇居周りでは、「渋滞」という付録も付いた。「自粛」なんてけしからんと思っていたら、結構日曜日は人出があった。私は金曜日も一つ宴会があったので、東北の酒を飲みました。

「自粛」なんて誰が考えたのか。きっと責任逃れを第一に考える人々が言い出したのでしょうが、東北の被災地に行けば日本の経済の強さがなければ大変なことになるが直ぐに分かる。しかも便乗自粛まで最近は見られただけに、桜に誘われて多くの人が土日出てきているのには勇気づけられました。

それでは、皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》